

四日市市立山手中学校 3年 城藤 大貴「一五〇年は県民の努力の証」

三重県はこの一五〇年の中で、多くの困難を乗り越えてきた。例えば、大きな地震や災害などがある度に、三重県民は力を合わせて、互いに支え合った。これができるのは県民一人一人がみんなのためのやる気があったと思う。でもそのやる気はどこからきているのか。

私が小学校四年生の頃に、学校の体験学習で四日市の伝統工芸品である萬古焼を作ったことがある。作り始めた時は、萬古焼を作るより、市販にある鍋などを買っている方が合理的だと思っていた。また、私が作ったものはバランスが非常に悪く、萬古焼の印象を悪くするような出来だった。正直、いらないなと思った。でも完成した自分の萬古焼を食事する時に使ってみた。そしたら、いつものごはんの味と違っていて、おいしいと感じた。なんでなんだろうと首をかしげていた私と一緒に食事をしていた母がこう言った。

「確かに、見た目があなたにとって嫌かもしれない。でも、そこには人の心が含まれているからね。」

私は萬古焼を作る意味がそこで分かった。それは、人のために支え合ったことが県民の使命であることだ。

三重県が今も存在している大きな要因は、県民がいつも県民のために支えられているからだ。そのため、三重県の未来は大きな困難があるかもしれないが、県民が県民のために努力を尽くせば、きっと三重県の将来は明るいはずだ。